

平成21年度 法人会計決算の概要

事務局長 中野 拓美

学校法人神戸薬科大学の会計処理は、公認会計士により毎月1回の月次監査を受けています。決算については「会計報告書」により決算監査を受けますが、私立学校振興助成法等により法人監事と公認会計士による合同の監査を受けることが必要です。平成21年度決算は、これらの手続を経て平成22年5月27日の理事会及び評議員会において、それぞれ審議・承認されました。

従来の例にならない、平成21年度の資金収支計算書・消費収支計算書及び貸借対照表を示し、決算の概要を説明させていただきます。

I. 資金収支計算書総括表（表1）

（当該会計年度の資金の動きによる収支内容を示すもの）

資金収入では、学生納付金収入は、学部入学手続者数が当初の想定を上回ったこともあり、2,340百万円となりました。

手数料収入は、学部入学検定料収入が推薦・センター・一般入試の各々で出願者数が予想を若干下回ったものの、エクステンションセンター事業関係で予想を上回る収入があったため、80百万円と予算額を上回りました。

寄付金収入は、平成21年度も同窓会や桔梗育友会をはじめ、個人・企業などから一般寄付金や奨学寄付金をいただいた結果、25百万円となりました。

補助金収入は、日本私立学校振興・共済事業団から交付される一般補助や特別補助の経常費補助金304百万円を中心に、大学改革推進等補助金（戦略的・大学連携支援事業）76百万円・私立学校施設整備費補助金（大型機器：MSシステム）48百万円他で430百万円と、予算額を上回りました。

資産運用収入は、全般的に低金利の金融環境下において、予想利回りの維持に努めた結果、112百万円と予算額を上回りました。

事業収入は、補助活動収入（寮費収入等）での寮生減少や企業等からの受託事業収入の減少もあり、27百万円と予算額を下回りました。

雑収入は、私立大学退職金財団交付金177百万円がその主なものとなっております。

資金支出では、人件費については退職者が増え、退職金が増え、予算額を上回りましたが、全体としては1,571百万円と予算額を下回りました。

また、教育研究経費は、実習費、教育施設維持費、光熱水費等における節約や合理化などから、657百万円と予算額を下回りました。

管理経費については、ひきつづき支出の見直しや経費節減に

努めた結果、164百万円と予算内に収めることができました。

施設関係支出では、1号館屋上防水・外壁補修工事50百万円や正門改修工事36百万円や如修塾外壁補修・屋上防水工事20百万円他を執行した結果、110百万円となりました。

設備関係支出は、大型機器（MS）更新96百万円や講義室のAV設置9百万円や実習用顕微鏡4百万円などを購入した結果、241百万円と予算額を上回りました。

資産運用支出では、減価償却引当資金200百万円、教育充実準備積立金200百万円、第2号基本金引当資金（教育環境整備引当資金）100百万円他で、予算額を上回る577百万円の積立を行うことができました。

以上の収支の結果、次年度繰越支払資金は1,033百万円と予算額を上回り、前受金収入403百万円は十分カバーできる決算となりました。

II. 消費収支計算書総括表（表2）

（当該会計年度の経常的な収入と支出との収支を示すもの）

消費収支については、資金収支の内容を踏まえ、資金収入に現物寄付を加算計上した後、支出面では資金支出に減価償却費等を加算しています。その結果、収入から支出を差引いた帰属収支は372百万円の余剰となりましたが、帰属収入から基本金組入額746百万円を控除すると、当年度消費収支は374百万円の支出超過となり、前年度からの収入超過額と差引きした結果、翌年度への繰越消費収入超過額は985百万円と前年度に比べ減少しました。

III. 貸借対照表（表3）

資産総額は、有形固定資産において減価償却の進捗があり、さらに、大型機器（MS）更新や1号館屋上防水・外壁補修工事他の事業のため、その他の固定資産（第2号基本金引当資金（大型機器充実引当資金）・減価償却引当資金）の取崩を行い、また、第2号基本金を含む諸引当資金の積増を行った結果、合計では270百万円増加し、20,839百万円となる一方、負債総額は借入金の返済等から102百万円減少し1,917百万円となりました。

その結果、基本金は17,936百万円、消費収支差額は985百万円の収入超過となりました。

IV. 財産目録（表4）

以上の決算の結果、財産は前年度から順調に増加し、平成21年度の正味財産＝純資産額（資産総額－負債総額）は前年度比372百万円（2.0%）増の18,921百万円となりました。